

平成29年度文化庁日本語教育大会《東京大会》第1分科会

多文化共生社会の最前線としての
地域日本語教室
～地域日本語教育の
専門家って何するの？～

伊東祐郎（東京外国語大学）

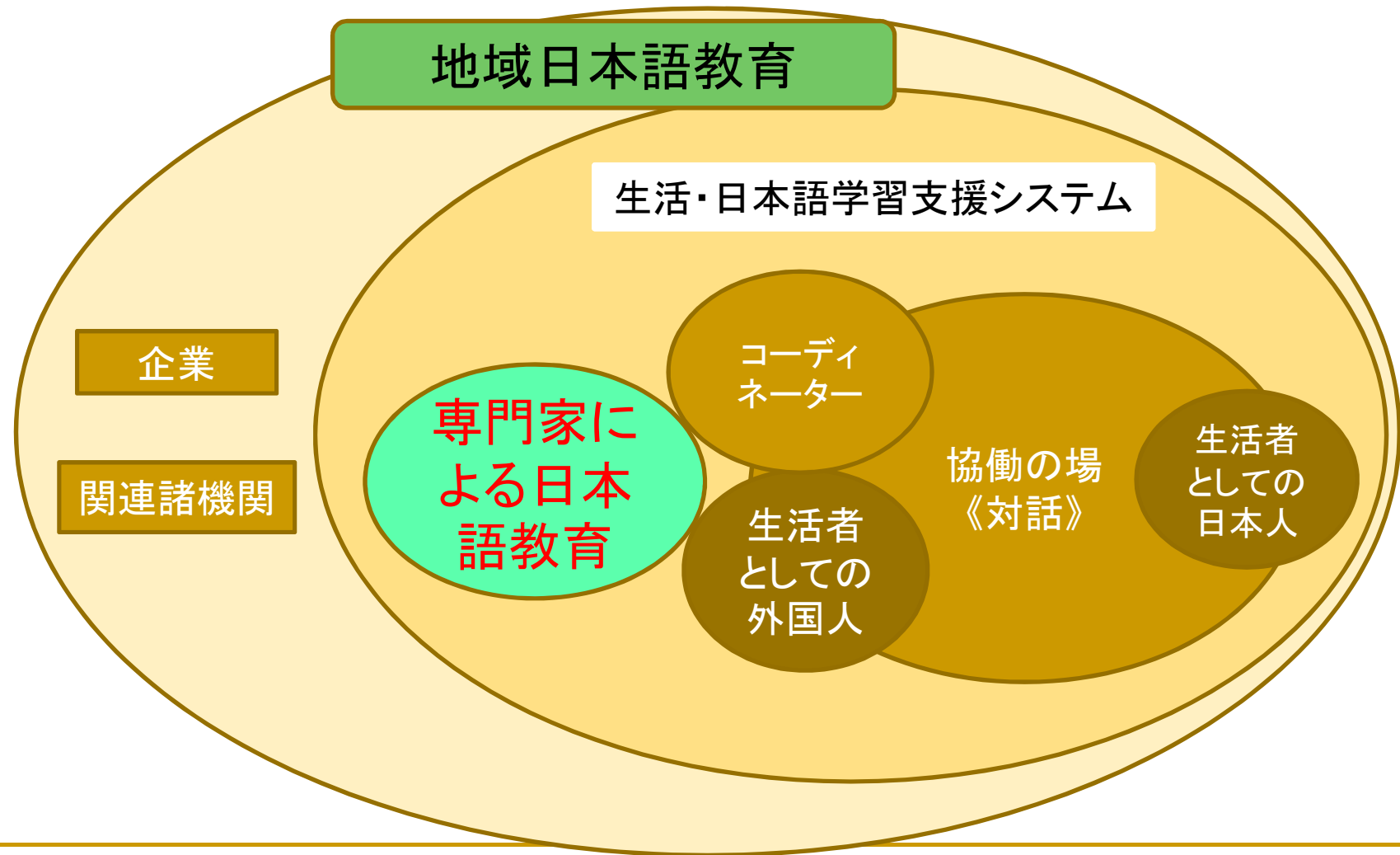
2017.8.27（日）

シニアアドバイザーとしての担当地域

- 広島県江田島市(2年目)
- 鹿児島県長島町(2年目)
- 佐賀県嬉野市(1年目)



地域日本語教育システム



(参考: 日本語教育学会編 2008)

地域日本語教室(1)

- 多様な背景とニーズを持つ学習者とボランティア。
- 日本語を教える者が、必ずしも専門知識を持っているとは限らない。
- 日本語を学ぶための教材や活動形態も様々。
- 教育の成果や学習の効果が問われることはほとんどない。
- ボランティアと外国人は同じ地域に暮らす住民。
- 生活の場が共存、共生の場となっている。

地域日本語教室(2)

- 日本語を教えることにとどまらず、地域住民としての支援や協力が必然的に関わってくる場。
- 日本語を学ぶことと異文化の中での生活適応が同時に進行する場。
- 地域住民(ボランティアと外国人)にとっての交流と相互理解の場、かつ人間関係を形成する場。
- ボランティアと外国人との関係づくりや、多文化社会でのネットワークづくりの場。

内容・課題・話題を重視した活動



コミュニケーション重視型

多文化接触＝多文化交流の最前線

日本人住民	外国人住民
母文化規範・個人規範 × 戸惑い・葛藤・驚き	母文化規範・個人規範 × 戸惑い・葛藤・驚き
異文化・多文化理解 ▽ 調整行動／同化行動	日本文化・多文化理解 ▽ 調整行動／同化行動

多文化接触＝多文化交流の最前線

日本人住民	外国人住民
多言語・多文化環境への適応 ▽ 価値観の理解・共有	日本文化環境への適応 ▽ 価値観の理解・共有
寛容性・柔軟性・多文化性の 醸成 ▽ 人間関係構築能力 ＝課題解決能力	寛容性・柔軟性・多文化性の 醸成 ▽ 人間関係構築能力 ＝課題解決能力

地域日本語教育プログラムの開設

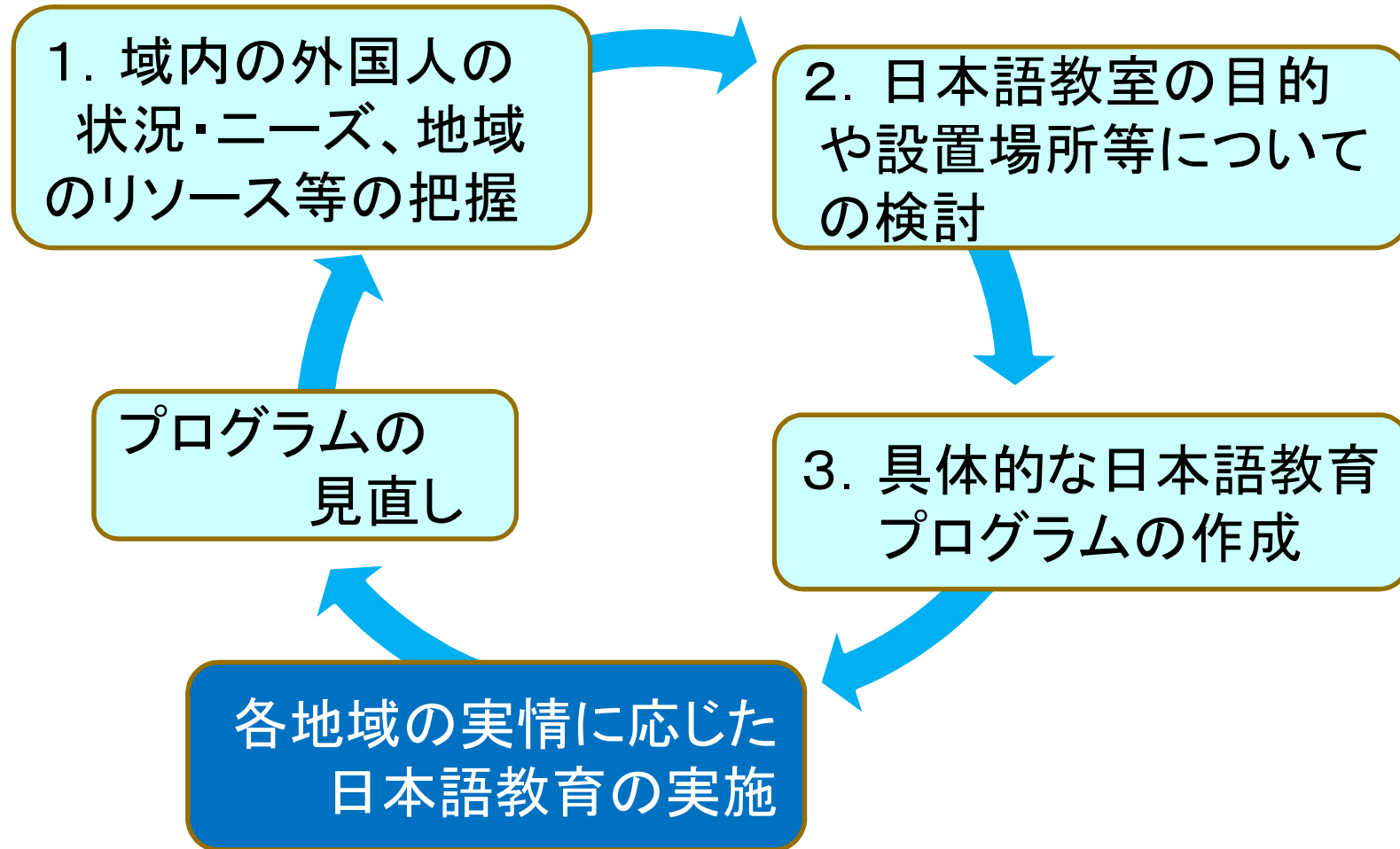
1. 域内の外国人の
状況・ニーズ、地域
のリソース等の把握

2. 日本語教室の目的
や設置場所等について
の検討

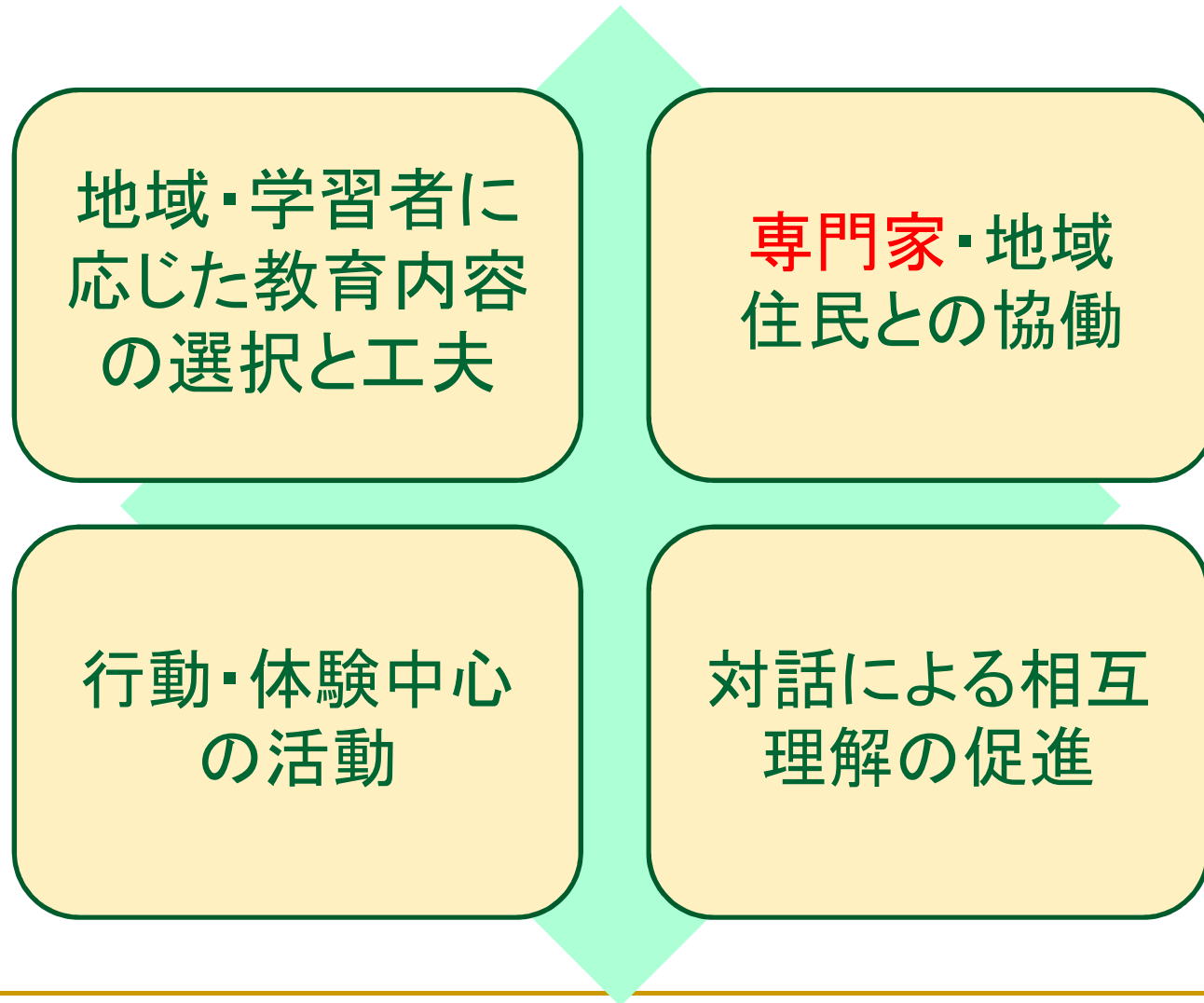
プログラムの
見直し

3. 具体的な日本語教育
プログラムの作成

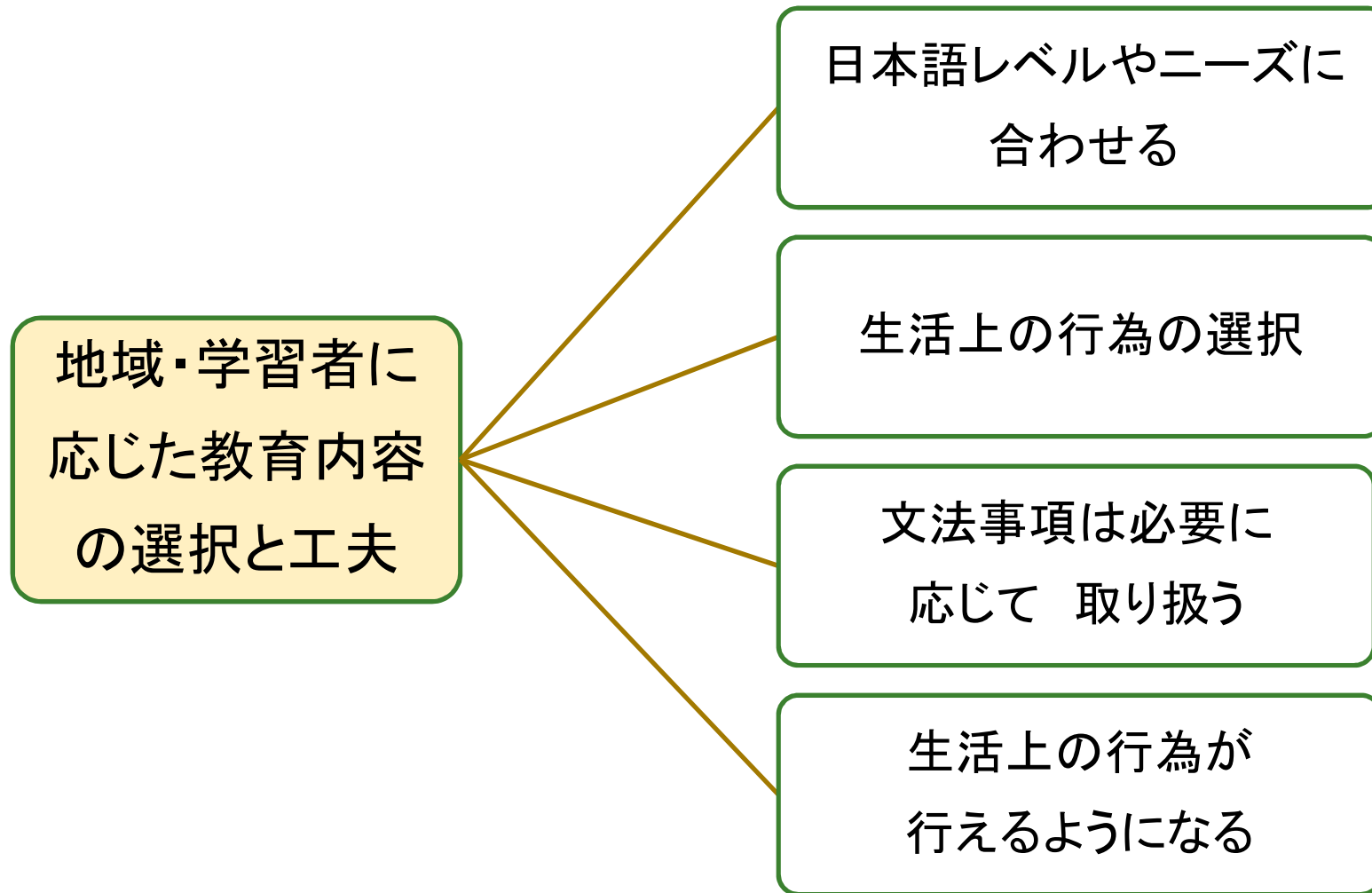
各地域の実情に応じた
日本語教育の実施



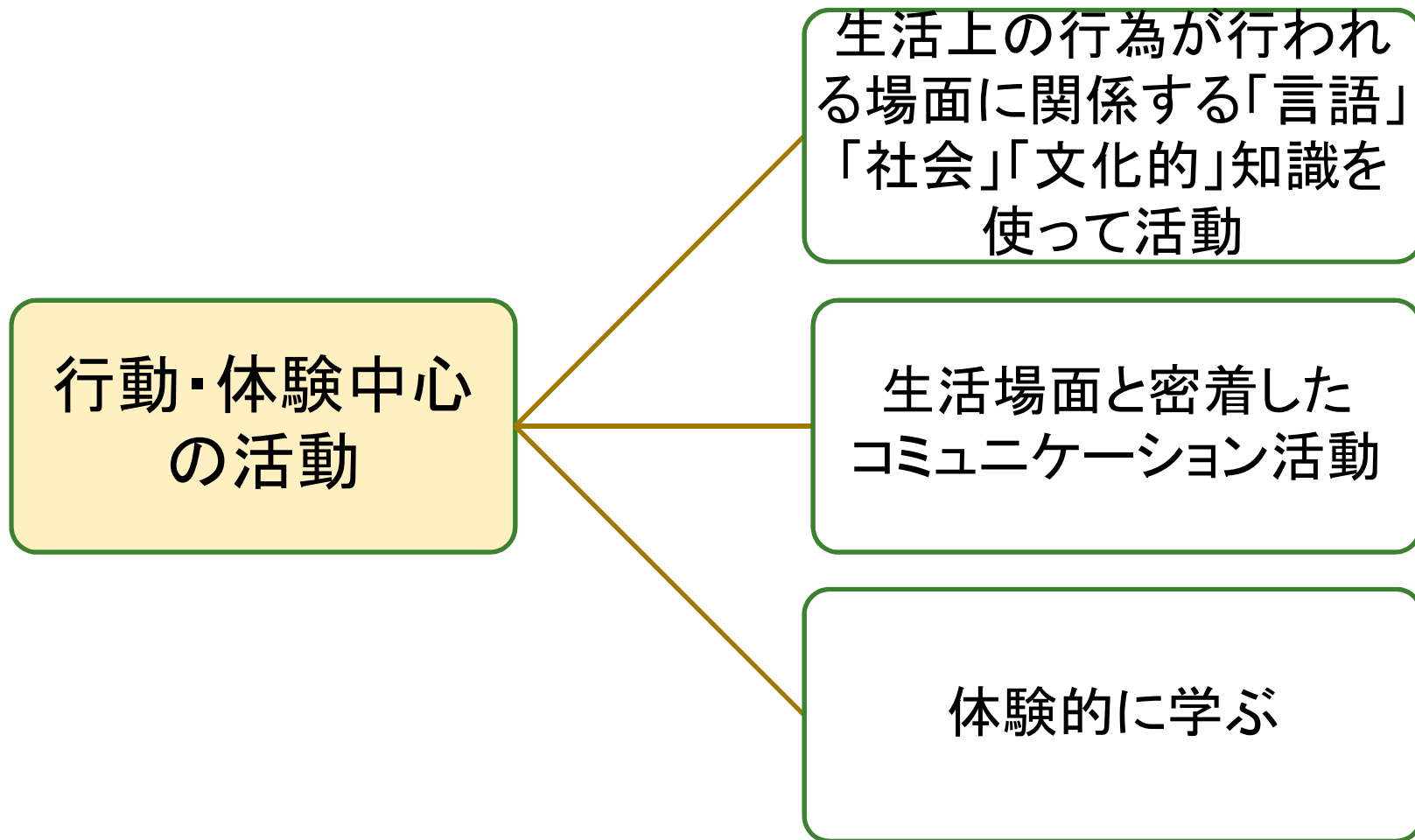
「カリキュラム案」の活用・指導方法



地域日本語教室：点検1



地域日本語教室：点検2



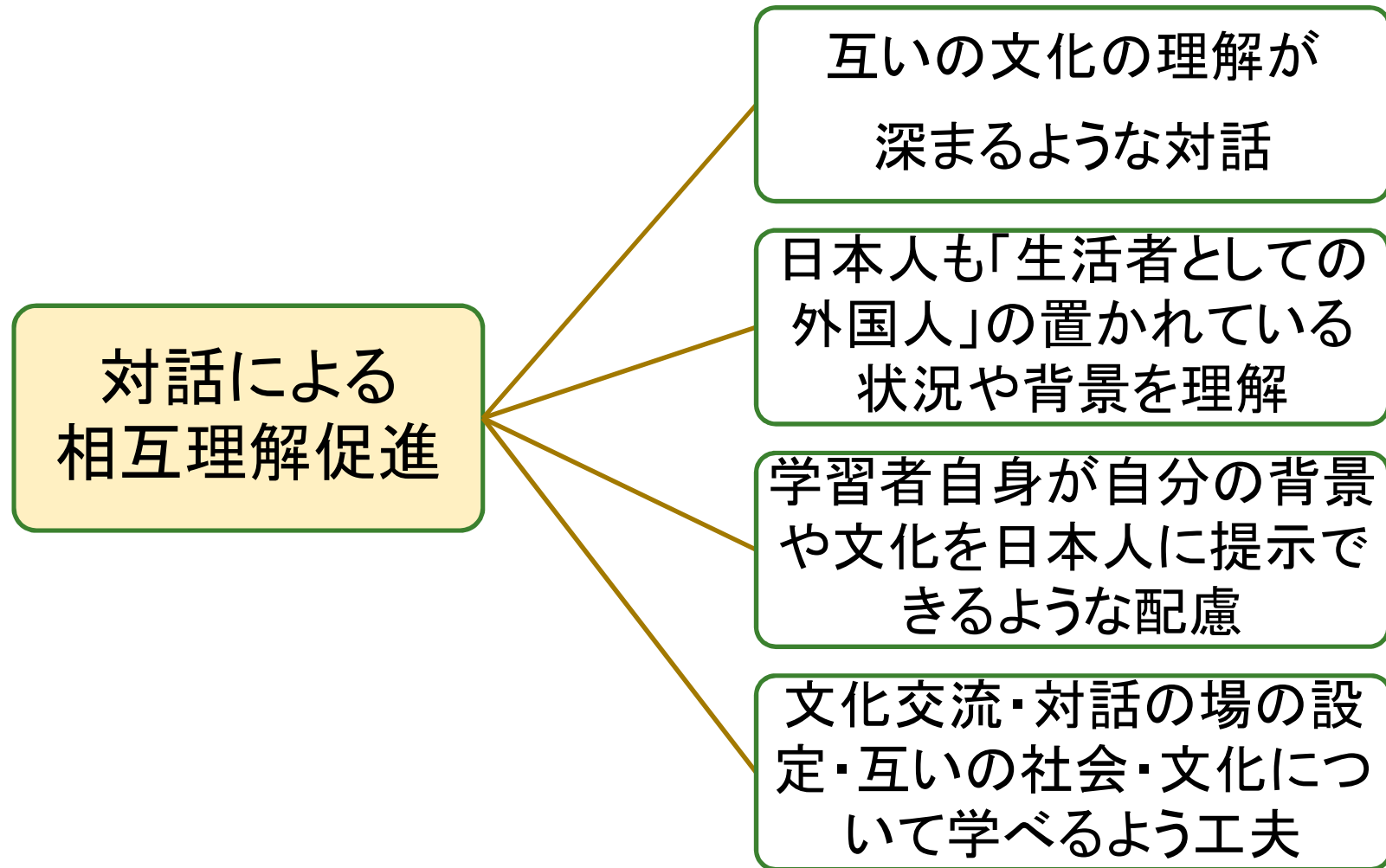
地域日本語教室：点検3

専門家・地域住民
との協働

学習者と母語が同じ人・
滞日期間が長い人・日
本の生活に詳しい人の
参加

地域における日本語
教育に精通した専門家
の助言

地域日本語教室：点検4



地域日本語教室の役割

- ①「居場所」
 - ②「交流」
 - ③「地域参加」
 - ④「国際交流」
 - ⑤「日本語学習」
-

日本語教育 **Plus** での対応(1)

- 共に生きることのできる
公正な社会づくり
- 人間理解と人間関係づくり
- 人間と文化の関係性への理解
- 文化の表現・創造活動への参加



「参加型学習」

日本語教育 *Plus* での対応(2)

(1) ボランティアと外国人住民、相互の学びの場
.....「対等」「対話」

(2) 相互のコミュニケーション活動の場
.....「共有」「協同」「共感」



自己発信・自己表現・自己実現が可能な空間
「社会参加が実現できる場」